

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム なごみや
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	刈谷市 井ヶ谷町 久伝原
記入者名 (管理者)	蓑島 朝子
記入日	平成 21年 3月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「いそがず ゆっくり その人らしく」を理念としている。また地域の中で“ともに歩む、ともに生きる”を目標としている。重要事項説明書にも記載している。	地域にも少しずつつなごみやの理念を浸透させていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関に入居者様の書いた理念が掲げている。その理念を実現するため入居者様のペースで生活できるように配慮している。	全職員に徹底、周知していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	重要事項説明書以外にもパンフレットに理念を記載しており見学者に配布している。また刈谷北部の民生委員にアピールする機会を設けた。	職場体験学習に来た中学生にも分かりやすい形で伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩のときなど近所の方に挨拶を行っている。犬を飼っており、散歩のときに声をかけられやすい雰囲気づくりをしている。年末にあいさつ回りをしている。みかん狩りをさせていただけるお宅ができた。	婦人会、子ども会などにも協力を呼び掛けていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員として自治会に加入している。環境美化運動も入居者と一緒に参加している。	地域行事には積極的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域運営推進会議で地域のニーズを探している。ホーム長が、ボランティアとして認知症サポーター養成講座(地域の民生委員対象)を開講した。</p>		<p>地域の介護相談に応じていきたいとアピール中</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を活用し、優先順位をつけて改善に取り組んでいる。職員は、自己評価表記入を業務の振り返りの機会としている。</p>		<p>外部評価の講評を運営推進会議で行いたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>随時、行っている。夜間体制の充実(宿直の導入)、子ども110番の家・車に登録、ショートステイの実現など会議での意見や要望が実現できた。</p>		<p>今後も会議での意見を反映させていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居者とともに市役所へ行くようにしている。認知症サポーター養成講座では、市役所長寿課との協働を行っている。</p>		<p>学校関係や企業の方などにもサポーター講座開催していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の内容を学ぶ機会を持つことができなかった。以前は、成年後見制度利用している入居者がいた。</p>		<p>外部研修なども利用し、学ぶ機会を持ちたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止法を学ぶ機会が設けられていないが、虐待に関する資料を配布、虐待防止への意識を高めている。無理な介護にならないように常に職員間でフォローしあっている。</p>		<p>研修、勉強会の機会を検討中。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ理解しやすいように説明している。説明を行ったあと、要望があれば契約書を持ち帰っていただき疑問点について随時説明し理解していただいたうえで契約している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から苦情があれば、業務日誌の申し送り欄に記載し、朝礼やユニット会議で検討する。2ヶ月に1回刈谷市の介護相談員を受け入れ、サービスに対する意見をいただいている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回、健康状態や行事、日常の様子を家族へ伝えるために手紙を出している。特変があった場合は電話で連絡をしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から苦情等があった場合はクレームノートに記載する。申し送り等で伝える。会議で議題として取り上げ検討する。ご意見箱を玄関に設置してある。		御意見箱に投書されることがないので検討していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議を行っている。欠席する職員は意見欄に伝えたいことを記入する。入居者様への対応や業務は会議で話し合いの上決定される。2ヶ月に1回社の次長、ホーム長、1・2階ユニットリーダー、ケアマネで運営会議を実施している。年2回常勤職員対象に面談を行っている。		パート職員にも面談を実施していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は4人の職員を配置し、個々の要望に応えるようにしている。行事がある日は、多めの人員配置で対応している。変化や要望がある場合に随時調整。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	随時お別れ会を利用者で行っている。職員移動の場合には申し送りを確実にし、利用者へのダメージを軽減するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画はないが、新人職員に研修記録を記入することを義務付けており、先輩職員からコメントがもらえるようになっている。社内研修の機会を設けている。また職員の希望により社外研修の機会も設けている。	OJTなどを積極的に活用し取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	刈谷市内のグループホームと交流会を行っている。他グループホームの家族会に出席させていただいた。他GHの職員に地域運営推進会議に出席していただいている。愛知県GH協会の西三河地方の会合にも参加した。	他GHへの見学や訪問を行っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社内研修でストレスマネジメント、自律訓練法の研修を行った。代表職員がストレスマネジメントの外部研修に出席した。社内の環境衛生委員会に属しており“働きやすい職場作り”を志している。	リフレッシュするため有給や連休なども職員の希望で取得できるように取り組んでいる。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の個別面談で業務に関する目標を定め、その評価を各々行っている。職員の要望などを取り入れホームの運営に活かしている。	外部研修では、希望した研修を受講できるように配慮している。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接でご本人様の気持ちを傾聴する。体験入居の際も気持ちを受け止めるように配慮している。	ショートステイも活用し、不安の軽減に努めていく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接において家族のご意見や要望を伺っている。入居後も随時相談に応じている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設の情報も提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をしていただき、どのような支援が必要か判定会議で情報収集し、検討させていただく。センター方式のシートを利用しなじみの生活の継続に努めている。入居者からの要望があれば、家族に了解を得て工夫する。		希望によりショートステイを利用していただき、徐々に慣れていただく。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様との会話の中で、お互いに支えあう関係であることを話題にし意識づけるように工夫している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームケアの一員として考え、情報を提供していただいている。家族の面会時に入居者の状況を伝え会話するように努めている。		センター方式のシートを家族に記入していただくようにしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の言葉(思い)を家族に伝え、関係を良いものとするように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会はあっても知人や友人の面会はあまりない。年賀状が届く。個別外出のときに住んでいたや馴染みの場所を起案するようにしている場合もある。		馴染みの方が来所された時にお話していただくスペースをとってある。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	前施設での馴染みの関係にある者同士の入居を実現した。気の合う入居者様同士で入浴したり、食卓を近くにするなどして関わりをもてるように支援している。レク等の時間に入居者同士がしゃべれる場を作っている。相性を考慮したユニット配置になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も相談があれば対応させていただく。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動から情報を収集しシートに記入し、職員全員で情報を共有しケアに生かすように努めている。(C-1-2シート)		専門学校の実習生もC-1-2シートを記入してもらった。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式B-3シートを通じ本人の生活史の情報収集に努めている。面接時に生活歴を家族に聞いている。シートを熟読するよう努め不明なことは家族に尋ねるようにしている。以前利用していたサービスに関しては、面接のときに家族に聞いている。		情報が乏しい入居者様がいる。以前の暮らし方を聞いたり、住んでいた街やなじみの店に行くようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の暮らしは、センター方式のシートを活用している。ホームでは、バイタルチェック、排泄チェック、食事量や服薬も確認し記録に残している。申し送りを確実に言い職員同士で早く情報を伝えられるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にはセンター方式のシートや口頭で情報収集に協力していただいている。音楽療法士に運営推進会議の場や音楽療法後に助言を伺っている。往診のときに医師より支持を仰いでいる。また主治医の意見書を参考にしている。介護相談員の受け入れをしている。これらの情報を基にケアプランを作成している。		カンファレンスに家族の参加を呼び掛けていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行っている。またスタッフ会議で個別の留意点を話し合う。状態が変化した場合はその都度プランの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌を記入し申し送りをしている。また個別の介護記録(個人ファイル)に日中夜間の様子や気づきを記入し、スタッフ間で共有している。様式はフォーカスチャートニング。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じ外出や外泊などを行っている。		ショートステイを始めたので、今後地域に役立てていきたい。具体的には、認知症の人を抱える家族のレスパイトなどに利用していただきたい。また利用者にとって徐々にホームに慣れていただく。入居者にとっても友達が泊まりに来るような感覚で相乗効果をねらう。
まいにち				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	愛教大付属高校のボランティア、中学生の職場体験学習を受け入れている。専門学校生やヘルパー養成講座の実習受け入れを実施した。刈谷北部の民生委員に見学に来ていただいた。外部の方からの気づきも入居者のケアに役立てている。		刈谷ボランティアセンターに登録した。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望があれば他サービスの利用を考えている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていないが、認知症サポーター養成講座に出席していただいた。		情報交換など密にしていきたい。運営推進会議に出席していただけるよう、交渉中である。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診(月2回)を利用している方、家族による定期受診をされている方、それぞれの希望に合わせ健康管理を行っている。		家人に依頼することもある。心配なことは何でも相談できるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に相談し、必要に応じ専門医を紹介してもらい対応している。必要に応じ八千代病院、長寿医療センターなどの専門医を受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師に入居者の健康管理について相談している。また本社の看護師に相談することもある。現在、派遣職員として看護師が2名いるので、助言をもらっている。		できれば正規職員として、看護師を配置したい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されるときに介護サマリーを病院に提供し、退院時には看護サマリーを提出してもらって情報交換に努めている。入院中にお見舞いに行き、退院後に必要となる情報を得るようにしている。退院後、不明な点は、電話し聞くようにしている。		早期退院に向け、医療機関との連携強化に努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、検討中である。		センター方式C1-2シートを活用し、家族の希望を聞いていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けた方針は、検討中である。常時看護師がホームにいないため医療行為ができない。		かかりつけ医と話し合い終末期に対応できるように連携していきたい。家族との協力体制を築いていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に体験入居を3日間実施していただいている。馴染みの物品をホームに持込みができるようになってきている。他へ移動する場合はサマリーを提供。更に家族の許可を得てセンター方式のシートを移転先に提供している。		ショートステイを活用し、徐々にホームに慣れていただくように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳を守るように努めている。個人情報の取り扱いは慎重にしている。新人職員に入職時研修として尊厳を守るケアを指導している。</p>	<p>センター方式シートを活用していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>話しやすい雰囲気づくりとして笑顔で心がけ、何か伝えたい時はしっかりと聴き、その人のそのときに合わせた言葉掛けを工夫している。本人の理解しやすい言葉を使っている。</p>	<p>自己決定することに慣れていただくため、行事の弁当選択、なごみやメニュー、誕生日外出など希望に添えるようにしているがさらに選択の機会を増やしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな日課が決められているが、起床、食事、入浴など入居者のペースや状態に合わせて行えるようにしている。気分転換の散歩など極力本人の希望に添えるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行事の時、化粧をしドレスや装飾品を身につけていただいたり、マニキュアをしたり気分を変えて楽しんでいる。希望により訪問理美容を利用し、毛染めやパーマも本人の希望に応じている。</p>	<p>馴染みの美容院がある方は、家族とともに馴染みの店に通っています。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜切り、準備、食器洗いなど職員と一緒にいるが、限られた人のみになりがちである。入居者のできる範囲でその方の状態に合わせて協働するように努めている。その方にあったもの(刻み、軟飯、パン等)提供している。</p>	<p>ひとり一人に役割を持っていただけるように支援していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつなど希望があれば一緒に買い物へ行く。毎日の喫茶時には、飲み物をそれぞれに聞いている。また、喫茶店へ出かけたり町内の飲食店へ出かけている。お酒は行事によってその人の状態に合わせて提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表から排泄パターンを確認し、定時の声かけを行っている。また表情からも観察し、声かけしている。失禁の回数が多くなったら、パターンを把握し支援している。その人に合わせ夜間のトイレ誘導も実施している。トイレの場所が分かりやすいように掲示してある。		自立に向けた取り組みを、さらに強化したい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食1時間後から夕食前1時間までに個別入浴で対応。気の合った人同士での入浴や一番風呂など希望に応じ支援している。入浴剤の使用やゆず風呂、菖蒲湯など気分をかえて入浴できるように心がけている。できているときとないときがある。その人の状態にあわせて無理がないように入浴していただいている。		入浴嫌い(拒否)の入居者もいるので、さらに楽しんで入っていただけるように工夫していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休みたい時に自由に居室に戻り休めるよう支援している。また居室内から施錠ができ入居者が施錠できるように支援しており、安心の空間が保てている。希望があれば持込の寝具を利用していただいている。ベットを使用せず床にすのこ布団で寝ていただいている方もいる。一人ひとりのペースに合わせた就寝介助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事など協働で行っている。レクリエーションで身体を使った遊びや歌など取り入れている。地域行事、誕生日外出や外食など楽しみと気晴らしの支援をしている。散歩やラジオ体操を毎日実施している。		音楽療法やお花クラブなどの活動もある。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持しおやつなど購入する入居者様もみえる。すべての人対象ではないがその状態に合わせ、お金を支払う機会を設けている。		店などで会計する機会が増えるよう支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に出かけている。買物、ドライブ、図書館など出かけている。可能な限り希望にそえるように努めている。		さらに回数を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体行事、ユニット活動で普段は行けない所への外出支援を行っている。個別では、希望を聞き誕生日外出や個別ケアとして行っている。		家族とともに外出の機会を持たない入居者様の支援を行ってほしい。また個別外出の機会を増やしてほしい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればホームの電話から話ができるように支援している。本人の希望があり家族の都合を聞いた上で実施している。		入居者に家族あてに手紙を定期的に出していただけるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を出し居室や居間、どこでも自由に談話できるように工夫している。		遠くより面会にみえる方が泊まれるように検討している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を配布しており、会議の際も身体拘束のないケアを呼びかけている。		拘束防止委員会が立ち上げてある。活動していないので必要に応じ拘束防止を啓発していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はできるだけ行わないようにしているが職員不足のときは一時的に施錠を行うこともある。夜間は防犯上の理由で施錠を行っている。居室は、ご本人様がかける以外は施錠していない。		全員が理解しているとは言えない。外部研修があれば、活用していく。日中に施錠しなくてもすむ職員配置が必要。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守り対応できるように配慮している。夜間は3時間ごとに巡視し、体調不良者などいるときなどは1時間ごとに巡視している。入室する時は声掛けとノックしている。入居者が玄関より出て活動する場合、必ず職員がつきそう。職員同士で声かけし、所在確認している。		職員の体制を充実させ、事故を防いでいきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	料理で包丁を使うときなどは横に付き見守りを行っている。活動に必要な物を片付けるのではなく常時見守り、対応している。		異食のある方がみえるのため作業が終わったら、不必要なものは片づける。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとを活用し情報共有に心がけている。服薬は三重のチェック体制をとっており誤薬防止に努めている。防火訓練、研修など知識の向上に努めている。気になる行動について申し送りやユニット会議で話し合う。		転倒予防の研修を行う予定である。年に2回避難・消化訓練を行っている。緊急時のフローチャート作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会社や地域の講習会で訓練を受け事故発生時に備えている。社員全員が救急救命講習を受けた。		初期対応の訓練を行いたい。もっと詳しく訓練できると良い。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を年2回行っている。職員の緊急連絡網がある。どのように地域と連携していくかは今後の課題。防災倉庫を設置した。		夜間は職員が少なく地域の人々の協力を得られるような取り組みを考えていきたい。災害時は家族に連絡を取り迎えに来ていただくように依頼してある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調に異常があった場合に受診し、家族に電話で伝える。また毎月のお手紙で家族に連絡している。リスクが予測される行動など家族に伝えるようにしている。		手紙、電話、来所時に話す機会を持っている。入居時に起こりうるリスクについて説明していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と入浴前にバイタルチェックを行い、体調の変化に注意している。異変がある場合、記録に残し申し送り速やかにかかりつけ医への受診を行い家族に連絡している。		排便確認やバイタルなど入居者の様子を観察し職員で情報を共有し早期発見に結び付けたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出されている薬の処方箋を読み、目的や副作用など理解している。薬が変わったときなど体調の変化など充分気をつけ様子見し申し送りしている。ひとり一人の薬袋に薬剤名と用途が記載されており、夜勤者がセットする。早番が中身を確認し、投薬前に再び確認する。		職員全員が情報を共有する。副作用までは把握できていないので把握するように努めたい。定期的な服薬については理解しても臨時薬については説明が必要。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、ヤクルトや麦飯の摂取、水分量のチェック、散歩などを行っている。自然排便を促すように努めている。		薬をなるべく使わずに、自然に排便できるようにしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけにより口腔ケアを実施し、夜は入れ歯を外しポリデントしている。拒否があれば無理強いしない(家族に伝えた承を得る)。歯科衛生士に磨き残し箇所を教えてもらっている。		全員が口腔ケアできれば良いが、拒否の強い入居者さまへの対応をどのようにするか取り組みを考えていきたい。歯科衛生士のみがき方指導を受ける予定。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の人には、本人の嗜好を大切に、できる範囲でカロリー制限している。排尿チェック表で尿量の少ない人などひとり一人の状況に応じた支援をしている。その日の体調に応じた量を加減、食べやすいように工夫する。食事は毎食確認しバイタルチェック表に記録している。少なくなってきた入居者はシートを使い摂取量や内容を確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	出勤時にうがい手洗いを実行し、次亜鉛酸ナトリウムを使用して手すり床など清掃に力を入れている。感染症予防のマニュアルがある。流行している感染症の情報について書面で伝達している。マスクを配布しているので受診介助の時に使用。		感染症予防の基本であるうがい手洗いを徹底していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン点検表を活用し定期的な確認と管理を行っている。定期的な消毒をし調理器具の清潔に配慮している。食材は発注している。鮮度を考慮しほぼ毎日配達されている。		食器乾燥機なども活用し、衛生管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関外にベンチを置き、犬を飼っている。近所の人も立ち寄りやすい雰囲気づくりをしている。なごみや横にある畑ではさつま芋、玉ねぎを栽培している。玄関内にもベンチを置き、季節の花や写真が飾ってある。癒しの空間でもある。日中は玄関は開錠してあり出入りは自由となっている。		地域の方が気軽に立ち寄ってくださるような雰囲気作りをさらにすすめたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは毎朝清掃、そのつど汚染していないか確認している。また、共有の空間には入居者様の外出時や行事の写真を貼り生活観や季節感を出している。毎日掃除がきちんと行われている。居間の壁に季節感のある掲示物を貼っている。		壁の掲示物も定期的に取り替え、季節感を損なわないよう注意している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を工夫したり、広い廊下のスペースにテーブルと椅子を置き、ひとりになれるスペースを作っている。玄関にひとり座り外を眺めたり、犬を飼っている横にベンチを置き癒しの空間を工夫している。それぞれに落ち着く場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していたものや家族の写真を貼ったりしている。仏壇を持ち込んでいる入居者もいる。好きなように工夫している。家族の要望にも応えるようにしている。		本人や家族の要望や習慣を尊重していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除のときだけではなくこまめに換気している。居間には温度・湿度計が設置しており、こまめにチェックしている。		加湿器や空気清浄機も使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりが設置されている。入居者の状態によって離床センサーを利用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアにそれぞれの名前が貼ってある。トイレも表示してある。トイレの場所がわかりにくい方のために矢印が張ってある。できないことをさりげなくフォローしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	なごみや横に畑を借りることができた。玄関前のベンチでは10時と3時のコーヒータイムで利用したり、駐車場では夏祭り、バーベキューなど様々な行事で利用している。小さな畑があり、収穫された野菜を提供している。楽しみにしている。		入居者とともに、畑での野菜作りを充実させていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

歩くことや体を動かすこと、歌、調理などにより五感をフルに使っていただき残存能力を生かした取り組みを行っています。畑での野菜作りなど、入居者の方と一緒に頑張